

別 添

海ごみゼロウィーク

ガイドライン

海ごみゼロウィーク

世界中では年間約800万トンの海洋ごみが発生しており、2050年にはプラスチックをはじめとする海洋ごみの量が、魚の量より多くなるとも言われています。

この海洋ごみの約8割は、陸(街)で発生したものが川を伝って海に流れ出したものとされています。

海洋ごみの問題は、国民全員が海洋ごみの問題について考え、行動しなければ解決することは難しい大きな問題です。

ごみを捨てない、ごみを出さないという強い意思を日本全体に広げ、海に関心を持つ人を増やし、海の未来を変える挑戦をしていきましょう。一人ひとりの行動が海の未来を変えることに繋がります。



プラスチック・スマートとは？

環境省では、海洋プラスチックごみ問題の解決に向けた取組として、 unnecessary のプラスチック排出抑制や分別回収の徹底など、“プラスチックとの賢い付き合い方”を全国的に推進し、取組を国内外に発進する「プラスチック・スマート」を2018年10月に立ち上げました。

CHANGE FOR THE BLUEとは？

国民一人ひとりが海洋ごみの問題を自分ごととし、“これ以上、海にごみを出さない”という社会全体の意識を向上させていくことを目標に、日本財団「海と日本プロジェクト」が推進しているプロジェクトです。海の豊かさを守り、海にごみを出さないという強い意思で日本全体が連帯し、海に関心を持つ人を増やし、海の未来を変える挑戦を実現していきます。

海ごみゼロウィークは、「CHANGE FOR THE BLUE」プロジェクトを推進する日本財団と「プラスチック・スマート」を推進する環境省との共同事業です。

本取り組みにより、日本全体で国民を巻き込んだ清掃活動を実施することで、海洋ごみ問題の周知啓発とともに、海洋ごみを出さないという意識を醸成することを目的としております。

海洋ごみについて考えよう

海洋ごみは、私たちの普段の生活から生み出されています。適切に処理されなかったり、ポイ捨てされたりしたごみが、川や海岸から海に入り込んで海洋ごみになります。中でもプラスチックごみは、紫外線を浴びるともろく崩れやすくなる性質があり、波や風の力等で細かく砕かれ、5mm以下のものはマイクロプラスチックと呼ばれます。海を漂うプラスチックを海鳥やウミガメ等の海洋生物が誤って食べてしまい、命を落とすことがあります。また魚が口に入れてしまったマイクロプラスチックが食物連鎖の過程で人の体に入り、表面に付着した有害物質が人体に影響を与える可能性もあります。海洋ごみ対策には、私たちの身の回りにあるごみを拾い、これ以上海にごみが流れ出てしまわないようにすることも非常に大切です。

海洋ごみ発生の原因

製造・流通



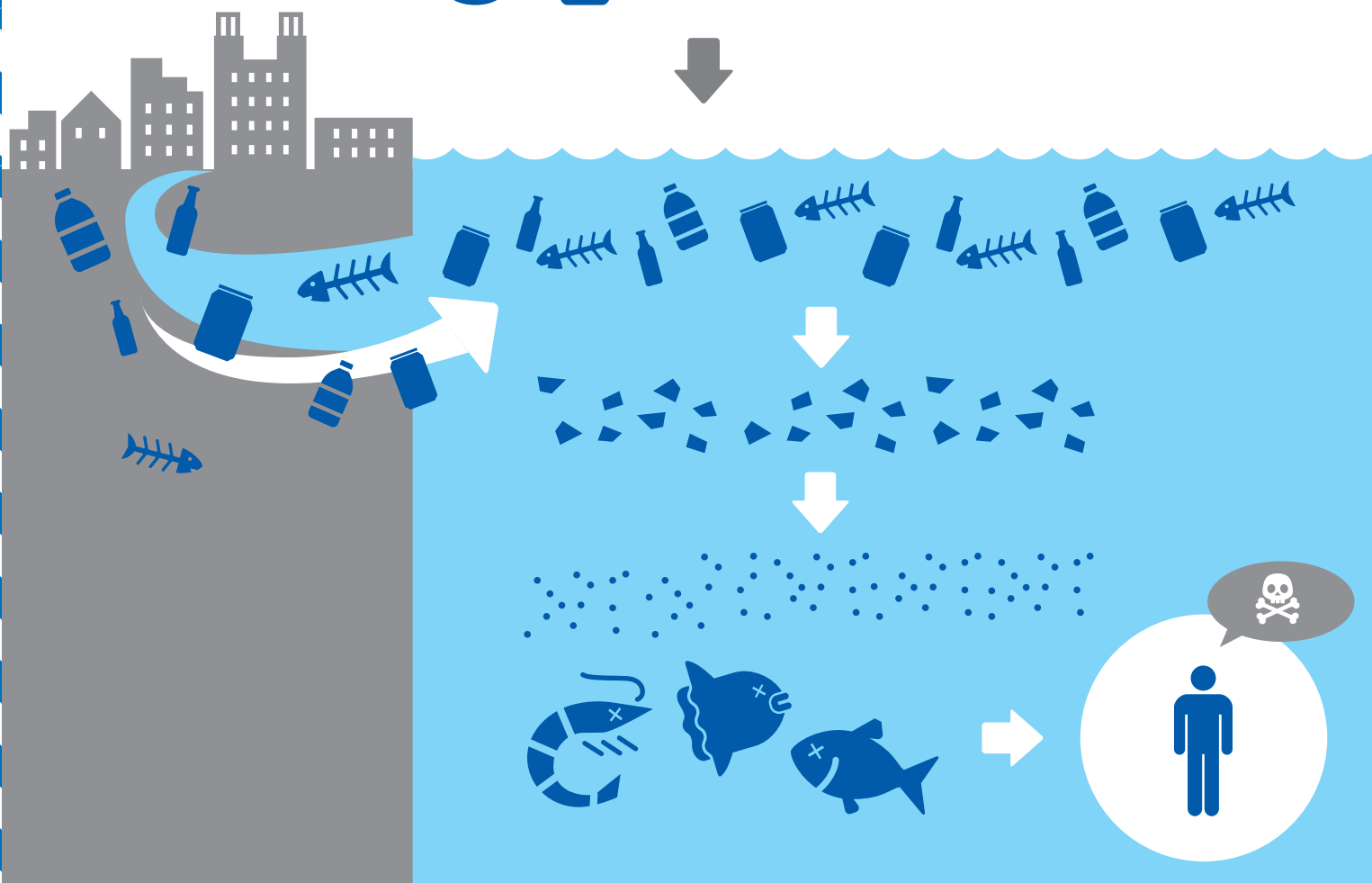
わたしたちの生活



ゴミ処理



適切に処理されないごみ



注意点

服装

- 日中は帽子をかぶるなどして熱中症に気をつけてください。
- 草むらなどで活動する場合は、長ズボンを履くなどして害虫や障害物などに気をつけて行動してください。

持ち物(軍手、トングなど)

- 危険物やプラスチックごみなどで怪我をしないように、軍手やトングを使うなどして活動してください。

熱中症対策

- こまめに水分補給を行い、熱中症には気をつけて行動してください。

ごみの分別

- 各自治体のルールに従って、ごみの分別を行ってください。

水事故

- 水際での活動は十分に気をつけて行動してください。
- 小さいお子様が1人で水際で行動しないよう管理者は配慮してください。
- 大津波警報・津波警報・津波注意報が発表された場合はすぐに高台などの安全な場所へ避難してください。また、浸水地域や避難場所、避難経路などを予め確認しておくなど、万一来に備えましょう。

粗大ごみの処理

- ごみ袋に入りきらない大きなごみなどは、各自治体の指示に従って処理をしてください。

ごみ袋の数を数えてください

- 回収したごみ袋の数は報告フォームにてご報告頂きます。
可燃、不燃ごとに回収したごみ袋の枚数を数えてください。

報告用の写真を撮影してください

- 報告の際に活動写真を投稿頂きます。参加者が集合している写真や回収したごみ袋などの写真を撮影し、ご報告の際にご登録をお願いします。

団体責任者の指示に従って行動してください

- そのほか細かい指示に関しては、団体の代表者の指示に従い、海ごみゼロウィークにご参加ください。



海ごみゼロウィーク 2025
ごみ拾いイベント実施安全対策ガイドライン

2025年4月1日版
海ごみゼロウィーク事務局

■はじめに

2019年の発生以降、永らく猛威を振るい続けてきた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）ですが、令和5年5月8日に新型コロナの感染症法上の分類が「5類」に引き下がり、感染症対策の基本的対処方針に基づくイベントの開催制限、施設の使用制限等も撤廃されることとなりました。海ごみゼロウィーク事務局としても、この内閣府の方針に準拠してごみ拾いイベント実施安全対策ガイドライン（本ガイドライン）の対応ルールを緩和することになりました。本ガイドラインは、今年度の新型コロナウイルス及びその他安全に関する留意点に対しての、対応方針の原則、基本を定めたものであり、実際の現場では状況を適切に判断して対応する必要がございます。海ごみゼロウィーク主催者及びイベント実施の際には、各主催団体の責任のもと、ご対応をお願い申し上げます。イベントで発生した一切の病気や怪我・事故などの責任は、主催者（事務局等含む）では負いかねますので、あらかじめご了承ください。また、本ガイドラインの内容は随時、「日本財団」と「海ごみゼロウィーク事務局」による審議のうえ、見直しを行います。

■海ごみゼロウィーク 2025

「ごみ拾いイベント実施安全対策ガイドライン」利用上の注意

本ガイドラインは、使用時には以下の点に留意する。

- ・ 各エリアの自治体が直近に発表しているコロナ等の疾病対策方針や熱中症等への注意状況を確認し、本ガイドラインよりも厳しいイベント実施制限を設けている場合はそちらに従うこと。
- ・ 各地域区分に記載された対応措置は確定的なものではなく、状況によって他の地域区分の措置を適用するなど機動的に対応すること。
- ・ イベント実施者が本ガイドラインを適用する場合は、イベント実施者の事情に合わせた対応をすること。
- ・ イベント会場の状況に合わせた対応をすること。
- ・ イベント参加者の属性などを考慮した対応をすること。

■ご連絡・お問合せ先

海ごみゼロウィーク事務局

メールアドレス:week@umigoizero.jp

基本的な安全対策の考え方

○マスクの着用について

個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねることを基本とする。高齢者等重症化リスクの高い者への感染を防ぐため、マスク着用が効果的な場面ではマスクの着用を推奨。

※「マスク着用の考え方の見直し等について」(新型コロナウイルス感染症 対策本部決定 令和 5 年 2 月 10 日)を参照

○手洗い等の手指衛生、換気について

新型コロナウイルス等感染症の特徴を踏まえた基本的感染対策として引き続き有効。

○「三つの密」の回避、人と人との距離の確保について

新型コロナ及び他の疾病流行期において、高齢者等重症化リスクの高い方は、換気の悪い場所や、不特定多数の人がいるような混雑した場所、近接した会話を避けることが感染防止対策として有効(避けられない場合はマスク着用が有効)。

○熱中症対策について

特に夏季など気温や湿度が高い時期においては、清掃活動中に適宜休憩時間や水分補給を促すなど熱中症予防を推奨。熱中症が発生した場合に備えて経口補水液の用意、最寄りの医療機関を確認しておくこと。

○危険な漂着ごみの取り扱いに関して

医療用の針などや内容物が不明の液体が入った瓶等の危険物を清掃活動中に発見した場合、素手などでは決して触らず、地域自治体等に処理方法を確認し対応すること。

○トラブルがあった際の対応について

・参加者が発熱や体調不良になった場合や、後に新型コロナウイルス感染が発覚したなどの場合は、参加者全員の安全と安心を最優先に考慮し、臨機応変に対応すること。

海ごみゼロウィーク

参加団体様用マニュアル (2026年度版)

2026年4月更新

※今年度はロゴマークやバナー、チラシの配布はございません
ごみ袋のみのお渡しとなります



このたびは、日本財団と環境省の共同事業の1つである「海ごみゼロウィーク」にご賛同いただきありがとうございます。

「海ごみゼロウィーク」とは、日本財団と環境省が推進する海洋プラスチック問題解決に向けた取り組み「プラスチック・スマート」とが協力して実施する、全国一斉の清掃活動です。

本資料は、**海ごみゼロウィーク**に関して、参加における手順をご案内するマニュアルとなっております。本紙をご参照の上、活動へのご参画を何卒よろしくお願い致します。

ごみ拾いが目的ではありません。(アクションの1つです)

「なぜごみ拾いが必要なのか？」をぜひ考え、理解し、アクション（ごみ拾い）に結び付けていただくことを切にお願い申し上げます。

また、このアクションに、より多くの人々に参加していただくことで、本プロジェクトが拡散され、ひとりでも多くの方の意識が少しでも変わることを祈っております。美しい日本がいつまでも後世に残るように。

ごみ拾いについて

申請が完了したら、活動へ向けての事前準備をお願いします。

実施エリアの自治体へ連絡をお願いします

ごみ拾いを実施するエリアの管轄である自治体に

- ・実施日時
- ・具体的な実施場所
- ・想定される回収ごみの量
- ・回収したごみの処理方法

について事前に連絡を入れ、ご確認をお願いします。

オリジナルごみ袋の事前受取をご確認ください



- ・当財団より、申請日から2週間程度で送付いたします。混雑の可能性もございますので、お早めのご申請にご協力ください。
※登録後、連絡先として入力された電話番号またはメール宛に、当財団からごみ袋の送付に関して確認連絡をさせていただく可能性がございます。
- ・枚数は申請時の枚数でお送りさせていただきます、色の指定などがある場合には、コメント欄でお知らせください
- ・**今年度のごみ袋は2種類です。**
ごみの分別は各自治体のルールによるため、可燃・不燃等の表示はしていません。
- ・ごみ袋の容量は30Lになります。

「海ごみゼロウィーク」について説明をしてください

ごみ拾い実施前に「海ごみゼロウィーク」の意義や海洋ごみの問題について説明をお願いします。



実際に清掃活動をしましよう

当日は、青いモノを身につけてごみ拾いを行ってください。

(例) シャツ・スカート・リストバンド・ピアス・ブレスレット 等



ハッシュタグ「#umigomi」でイベント情報を発信してください

この活動を広く多くの人に知ってもらうために、ハッシュタグを付けてSNSでの発信をお願いします。次回以降の参加促進にもつながります。



報告のために当日に写真を撮ってください

海ごみゼロウィークに参加していることがわかる写真

(例：ごみ袋が映っているなど)をお願いします。報告フォーマットにて**計3枚**ご提出いただきます。※報告写真はホームページ上に掲載されます。顔出しNGの方がいらっしゃる場合は映らないようにご撮影ください。



※イメージ写真

回収ごみ袋の数量を記録してください

回収されたゴミ袋を「可燃」「不燃」でそれぞれ何袋回収されたかを数えてください。
※報告書フォームに記載欄がありますので、そちらよりご報告をお願いします。

その他

- ・ケガや事故のないようごみ拾いを行ってください。
- ・参加者の把握（募集管理）、通達（集合場所や参加時における諸注意等）、保険加入 等については、各実施団体において行ってください。

実施完了後、公式ホームページより実施報告をお願いします。

▼ ホームページのメニューバー横にある「活動報告をする」をクリック。



▼ 報告フォームにそって、情報を入力してください。

【ご報告項目】 団体名・団体住所などの団体情報、実施日、参加人数、回収ごみ袋数（可燃、不燃）、活動写真（3枚まで）

海ごみゼロウィーク
推進パートナー申請フォーム

主催者情報

ご情報の選択先となりますので、正確にご記入ください。

必須 企業・団体・自治体名
例) チーム海ごみゼロ

必須 企業・団体・自治体名 (フリガナ)
例) チームウミゴミゼロ

必須 代表者氏名
例) 鈴木 一郎

必須 代表者氏名 (フリガナ)
例) スズキ イチロウ

必須 メールアドレス
例) sample@uminohi.jp

必須 メールアドレス (確認用)
例) sample@uminohi.jp

必須 電話番号
例) 0312345678

必須 ご住所
郵便番号
例) 100-0001

▼ 入力内容が結果報告ページに反映されます。



必ず写真を添付してください

活動実績としてアップされます

※報告はごみ拾い実施ごとにご入力をお願い致します。

例えば・・・

同団体が5カ所で実施した場合には、5つの報告が必要となります。